

写真左から、吉見専務取締役、松永経済産業省自動車課長、上田知事、福井社長、津久井町長、矢作環境省環境管理技術室長、平島専務取締役



# ■特集 ホンダ寄居新工場 工事着手

## 平成22年の工場稼動に向けて

昨年5月17日に発表された本田技研工業株式会社（以下、ホンダ）の四輪車生産工場（以下、寄居新工場）が、開発行為に関する諸手続を終えて、9月20日に起工式が行われました。

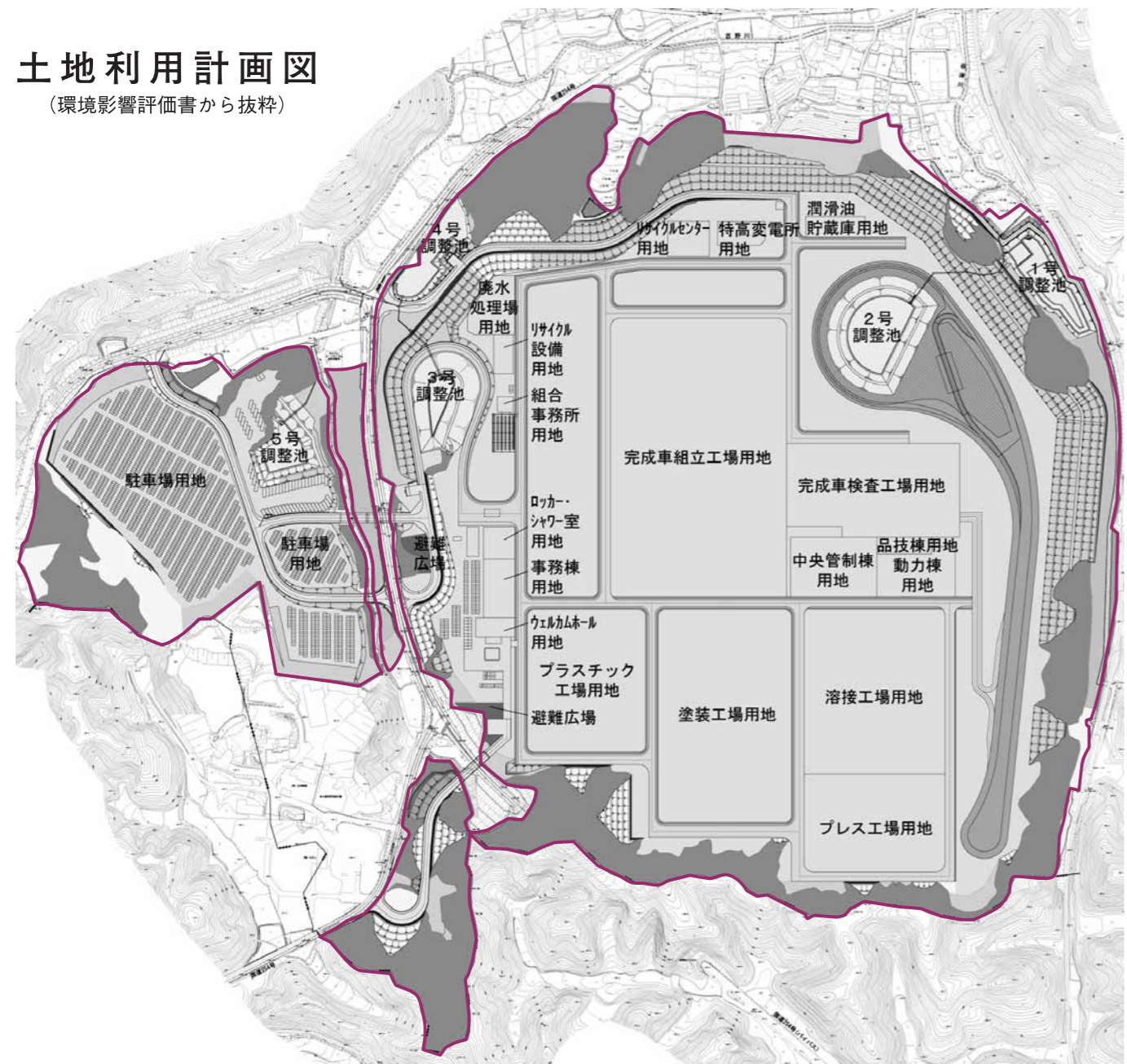
### グランドブレイキング

起工式は、寄居新工場建設地において、上田清司埼玉県知事をはじめ多数の来賓を迎えて、約100人が出席する中で行われました。世界的な企業のホンダでは、グランドブレイキングという言葉で起工式のことを呼び、式では、福井威夫代表取締役社長や上田知事、津久井幹雄町長ら7人が盛り土にくわ入れを行いました。オープニングでは、福井社長から、「新工場は、『人に優しい、高品質で高効率な生産・物流システムを駆使した、資源・エネルギー循環型ファクトリー』をコンセプトに、現在の狭山工場と合わせ、ホンダの技術力をさらに強化し、世界の拠点に水平展開する役割を担っていく。また、環境面においても、緑地での寄居町固有の植物の栽培や、工場の屋上緑化など、地域社会との共生に向けたグリーンファクトリー活動を加速していく」といった世界規模の企業らしさを感じさせる内容のあいさつがありました。また、来賓のあいさつでは、上田知事から、「70万人の県民を代表して心からお喜び申し上げる。ホンダは、世界を代表する企業。世界に発信する工場が埼玉県に出来ることは大変うれしい。寄居町、小川町と手を携えて、ホンダを迎えて良かったと地域の皆様をはじめ、埼玉県民が思っているよう努力していく」という喜びの言葉が述べられ、津久井町長も、「町民を代表して心から祝意を表する。新工場が核となり、県北地域のみならず、埼玉県が大きく発展するものと確信している。町民の皆さんがニコニコできる町をホンダと一緒につくってほしい」といった内容で、町民を代表して歓迎の意を表すなど、昨年の発表以来、待ちに待ったホンダの寄居新工場に対する期待の大きさが伺われるものでした。

今後は、平成22年の工場稼動に向けて造成工事や建物の建設工事が進められます。

## 土地利用計画図

(環境影響評価書から抜粋)



### 建設地と建設規模

寄居新工場の建設地は、男衾の谷津地区に位置し、一般国道254号を挟んで東側と西側になります。建物が建つ東側は、標高110m〜210mで、一部には農地等がありました。ほとんどが山林です。国道西側の計画地は、標高120m〜200mで、一部に山林もあります。国道沿いに農地がありますが、多くが企業用地として使われていました。面積は、国道東側が83・34ha、西側が14・50ha、合計97・84haという広大な面積で、完成すると県内では最も大きな敷地を持つ工場になります。工場用地の造り、高さは、国道東側を標高約146m、西側を約148mと

標高約135〜140mとする計画です。これは、造成にあたって、切土量と盛土量のバランスを保ち、出来る限り残土を発生させないようにするためです。このため、工場の建物が建設される面は、場所により国道から約20〜25mほど高くなります。この工場用地に、生産施設、厚生施設、事務所などの建物を整備する計画になっています。平成22年の稼動時には、建築面積約260,000㎡、延べ床面積で404,000㎡、高さ最大約42mの巨大な工場建物が建設される計画です。

